

群 教 セ	G15 - 01
	平 27. 256 集
	高 - キャリア

平成27年度長期社会体験研修報告書

研修先：サンデンホールディングス株式会社

長期社会体験研修員 塩谷 貴彦

I 研修内容

1 研修先の概要

サンデンホールディングス株式会社は、1943年に伊勢崎市に設立された機械製造会社である。2015年4月より持株会社体制へと移行し、社名をサンデン株式会社から変更した。世界23カ国54拠点に事業を展開するグローバル企業で、主な製品は、自動車機器（カーエアコンシステム等）、流通システム（店舗システム、飲料自動販売機）、住環境機器（エコキュート住宅空調システム）、電子機器である。これらの製品を八斗島事業所と赤城事業所を中心に世界各地で生産している。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修【4月上旬～4月中旬】（研修場所：コミュニケーションプラザ）

企業理念及び経営方針に対する講義や給与体系、福利厚生制度について研修を受けた。また、班別でのPDCA演習や植樹等の環境保護活動を経験する中で企業の概要を学ぶことができた。

(2) 工場生産実習研修【4月下旬～5月中旬】（研修場所：流通システム事業工場）

赤城事業所内で事前指導を受け、エアドライバーなどの専門工具を用いた研修を行った。実務研修として自動販売機、ショーケースの製造ラインで作業を行った。

(3) 事業部配属研修【5月下旬～3月】（研修場所：サンデンフォレスト）

赤城事業所内のサンデンフォレストで施設訪問者の受入れ、案内、環境学習、自然体験活動、施設管理、営業などの業務を行った。また、次年度の新事業を計画するために、研修者として自らの計画を提案する機会をいただき、企画立案とプレゼンテーションの難しさを改めて学んだ。

(4) 管理職研修【11月17日・18日】（研修場所：コミュニケーションプラザ）

中間管理職を対象とした研修に一泊二日の日程で参加した。部下への人事評価における講義やグループディスカッションを通し、適正に人物を評価する視点と難しさを学ぶことができた。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

企業研修を通して得た「働くことの楽しさ」を生徒に伝え、学校生活において他者との学び合いや支え合いの大切さを理解させることをねらいとしてリーフレットを作成した。リーフレットには、サンデンホールディングスにおける研修から学んだ、「社員一人ひとりがかかけがえのない人（必要な存在）」をテーマとして「社員の研修制度」「企業が求める力」等を掲載した。企業に求められる人材となるために、学校生活と結び付けて考える資料として活用できるようにした。

(2) 実践の概要

題材名 「組織における役割分担の重要性」（特別活動）

対象 普通科第2学年 49名

研修先企業の紹介と研修内容について説明し、協調性や責任感、忍耐力を高めることをねらいとして、研修先のPDCA演習を参考として演習を行った。演習は2回実施し、1回目は生徒に助言を与えずに実施し、2回目は実施前に1回目の課題を改善するためにグループ協議を行い、各グループで改善策を考えて実施した。また、ワークシートを用いた意見交換による学び合いから、「相手の意見を聞き、自分の意見を分かりやすく相手に伝える」というコミュニケーション能力の育成を取り入れた。

II 研修成果

1 新入社員研修について

社会人としての基礎知識やビジネスマナーを学ぶとともに、新入社員一人一人の不安を取り除き、日々の業務に対して安心して取り組めるようコミュニケーション能力の育成を重視した研修を行っていた。入社後、約半年間の研修によって社会人への切り替えをさせており、企業は協調性やコミュニケーション能力を新入社員に求めていることが分かった。学校においても新入生へのオリエンテーションや学習指導等で、きめ細やかな指導が必要であることを再認識した。

2 工場生産実習研修について

ねじ締め等の技能講習の後、大型の店舗用ショーケースから自動販売機まで3種類の製造ラインで実習を行った。作業はとても厳しいものであったが、現場の作業員と会話を交わすことで、職業に対する様々な意見や考え方を聞くことができた。「働くことの楽しさ」や「コミュニケーションの大切さ」を自らの体験から学んだことにより、授業実践やリーフレットに生かすことができた。

3 事業部配属研修について

業務を確実に遂行するためには、上司や同僚に対して「報告、連絡、相談」を徹底し、ミスのないように細心の注意を払って取り組んでいる。さらに、すべての事業部において「自分で考え行動する力」も求められている。こうしたことから、自らの業務内容だけでなく、事業部全体の業務内容や企業全体に目を向け、業務に対する専門性と幅広い知識が必要であることを学んだ。学校教育では、学習指導と生徒指導が重要である。研修で学んだ上司や同僚との連携を大切に、生徒に対して効果的な指導を展開できるよう、教員としての資質向上に努力したい。

4 企業の業務改善活動について

企業は、技術開発と品質を大切に、顧客から満足を得るために業務改善に努力している。業務の効率化を図るためのミーティングを行い、社員一人一人が互いの意見を伝え、学び合うことを通して所属意識と責任感、互いに高め合うための評価等を行い、「働くことの楽しさ」を築き上げていることを学んだ。この経験を基に、ミドルリーダーとして学校運営に対して参画していきたい。

5 キャリア教育実践について

企業が実際に行っている研修を高校生に体験させることで「企業が求める人材」を理解させたいと考え、グループによるPDCA演習を中心に授業を展開した。この演習では、グループ（6人）で協力して作業を行い、作業の効率化、役割分担、責任感の大切さを学ぶとともにコミュニケーション能力の育成も視野に入れた。演習を通じ、仕事においては、社員すべてが担当している仕事に責任を持つことが必要であり、そこには一人一人かけがえのない人という価値観があることを理解させた。また、意思の疎通にはコミュニケーション能力が必要である事を学ばせ、社会生活と学校生活を結び付けて考えさせることができた。

III まとめ

製造業における研修から、企業は「みんなの力を合わせて繁栄する」ということを最も大切にして、社員が一丸となって取り組んでいることを学んだ。この研修で体験したことを基に、協調性、責任感、忍耐力の大切さを生徒に伝えていきたい。また、学校生活と社会生活の結び付きを大切にした学習指導や進路指導の在り方について、生徒の実態に即した指導方法を考えていきたい。本研修を通じて得た知識や経験をキャリア教育の推進に生かしたい。

(担当指導主事 相京 貴志)